

■神奈川県 の地形区分図（その2）



出典：『5万分の1地質図：産業技術総合研究所HP』

■秦野・山中湖周辺の地形区分図



出典：『5万分の1都道府県土地分類基本調査（秦野・山中湖）：国土交通省HP』

(2) 地質概要

以下に「神奈川県を主とした地質図」、次頁に「丹沢山地周辺の地質図」および「秦野・山中湖周辺の地質層序表」を示す。

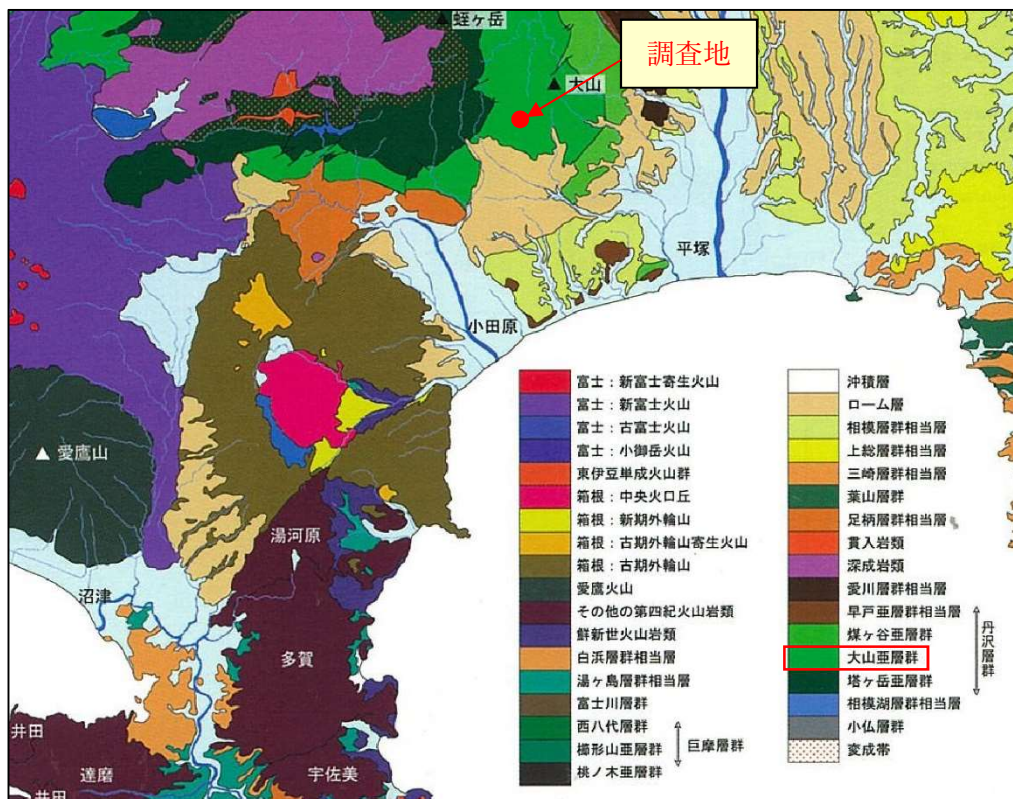
本調査地には、丹沢層群の大山亜層群本谷川層が分布する。丹沢層群は 1700～600 万年前に形成された地層で、北西－南東の走向で、北へ傾斜し、北側が上位の背斜構造と考えられている。全体の層厚は数千 m から 1 万 m である。また、丹沢層群は西丹沢に分布するトーナル岩体を取り囲んでドーム状の構造をなし、下位より、塔ヶ岳・大山・煤ヶ谷・早戸の 4 亜層群に区分される。下位の 3 亜層群は塊状で無層理の緑色化した安山岩質の凝灰角礫岩層があり、著しく破碎された凝灰質泥岩層をはさんでいる。

丹沢層群の上位層は、堂山・台・瀬戸・都夫良野・畑沢及び塩沢の 6 累層に区分される足柄層群である。足柄層群は主に砂岩・泥岩及び礫岩からなり、しばしば火砕岩層や溶岩を挟んでいる。

足柄層群の上位には、新期ローム層が位置する。新期ローム層は古富士火山後期、箱根火山新期軽石流期～中央火口丘期の火山碎屑物からなる。さらに新期ローム層は武蔵野ローム層、立川ローム層に分類される。

武蔵野ローム層は層厚 20～30m の褐色ないし青灰色の火山灰で、5～7m の軽石層を挟む。ローム層は一部粘土化しており、層厚は 5～10m である。立川ローム層は層厚 8～10m で、スコリアを含む赤褐色の火山灰であり、古富士泥流を挟む。

■神奈川県を主とした地質図



出典：『大いなる神奈川の地盤：地盤工学会（平成 22 年 10 月）』 p. 1

